



実用新案公報

庁内整理番号 6976—21

④公告 昭和51年(1976)7月16日

(全2頁)

④釣竿の嵌着装置

②実 願 昭48-76976
②出 願 昭48((1973)6月27日
公 開 昭50-23285
③昭50(1975)3月15日
⑦考 案 者 大村隆一
静岡市南町19の3
⑦出 願 人 富士工業株式会社
同所
⑦代 理 人 弁理士 福地正次

⑦実用新案登録請求の範囲

先端部に凹窪3を削成したハンドル1に雄螺旋4を螺設してこれに固定具5を螺合し、ハンドル1の先端と固定具5の内後端7との間に緊止輪6を内設し、該緊止輪を軟質材料をもつて形成することを特徴とする釣竿の嵌着装置。

考察の詳細な説明

本考察は釣竿とそのハンドルとを嵌着する装置に関し、両者を確実且つ強固に接合すると共に、着脱を容易にするものである。

釣魚においては対象とする魚の種類、その大きさ、釣場の状態、並びに季節等によつて最も釣果をあげるべき条件に適した釣竿を選択して使用し、同時に該竿に嵌着するハンドルも上記と同様選択して使用するものである。

そのため、適切な釣竿とハンドルとの組合せは極めて多種になり、釣竿とハンドルとをあらかじめ一体的に形成すると、極めて多数の、換言すれば、両者の組合せの数と同数の竿が必要となる。

従来釣人は、数種の釣竿と数種のハンドルとを用意し、これらを適宜組合せて使用し、釣り条件に対処していた。その際ハンドルと釣竿とを嵌着するにあつては、ハンドルの先端部にコレット・チャックを形成し、これによつて両者を接合していた。

しかるにこの方法は、コレット・チャックを金

属をもつて成形しなければならない事から、ハンドル本体を必然的に金属製にしなければならず、ハンドルが重量になつて、竿のバランスが崩れ、その振り上げ、振りおろしが困難であつた。又、該方法は、釣竿自体が硬質材料を以つて作成されている事から、金属製コレット・チャックと噛合する部位が損傷され易く、又両者が噛合によつては殆んど変形しないため、僅かの弛みによつて竿が抜去する欠点があつた。

本考察は、合成ゴムの如き軟質固体材料がこれに加えられる圧力によつてはその体積が変化せず単に変形するのみである点を利用して、緩を緊締固着するもので、以下図について説明すると、1は釣竿のハンドルであつて、図においてはライトスピニングハンドルを示している。そしてその先端部には、釣竿2の基底部と嵌合する円筒状の凹窪3を作成し、その外周壁には雄螺旋4を螺設して、固定具5と螺合する。固定具5の先端部内周壁は図に示す如く、凹窪3と一体的に連続し、両者の間、換言すれば該固定具5の内周壁の後端7と、ハンドル1の先端との間には、合成ゴム等の軟質材料をもつて輪状に形成した緊止輪6を巻設する。

8は補助輪であつて、固定具5を緊締する際、緊止輪6と後端7との摺動抵抗力を減じ、その作業を容易にするのである。

9も補助輪であるが、上記作業において、緊止輪6はハンドル1の先端と摺動することは殆んどないので、両者の摺動抵抗力を減ずる目的では必ずしも設ける必要はない。

10はアダプターであつて、その外径寸法を凹窪3に対応させ、内径寸法を釣竿2に合致させて形成し、該釣竿の太さ寸法の如何にかかわらずこれをハンドル1に嵌着させるものである。

本考察は上記の構成をなしたから、ハンドル1と釣竿とを嵌合するにあつては、先ず第2図に示す如く、緊止輪6及び補助輪8, 9を内装した固定具5とハンドル1とを緩く螺合し、これを釣



3

4

竿2を挿入する。

上記において緊止輪6は原形を保ち、その内径は凹窪3と略一致している。又釣竿2はその径寸法が凹窪3のそれと著しく差異が生じているときは、あらかじめこれにアダプター10を嵌着しておく。次に固定具5を緊締すればハンドル1の先端と該固定具5の後端7との間隔が決まり、それに伴つて緊止輪6が両側から押圧されて変形しその内壁面11が次第に内側に突出して内径寸法を減少し、第3図に示す如く、遂には釣竿2に接してこれを押圧して固定する。

尚、その際凹窪3の内径寸法をその底部に向つて次第に減じて削成すれば、釣竿2はその基端の外径寸法と凹窪3の内径寸法とが一致する点まで挿入して停止するから、該釣竿はその基端を凹窪3に保持され、更に緊止輪6と接する点においても保持されて安定する。

以上詳述した如く本考案は、従来のコレット・チャック方式によるハンドルが釣竿を摺持してこれを固定したのに対し、固定具5を釣竿2の長さ方向に前進させ、又は後退させることによつてこれを固着するようにしたから、操作が簡単であるばかりか、固定具5の外形を従来品に比較して極めて小形に作成し得、又該固定具のみならずハン

ドル1を金属をもつて形成する必要はなく、合成樹脂の如き軽量材料を用いれば足り、重量バランスのすぐれた使い易いものである。

又、釣竿2は軟質材料をもつて形成した緊止輪6に押圧固定されるから、その接触部においてこれが損傷する虞れは全くなく、緊止輪6の内壁面11の内径寸法は固定具5の緊締による押圧力によつて変化するから、凹窪3と釣竿2との間隙の変化、換言すれば凹窪3に対する釣竿2の寸法の誤差をこれによつて吸収してその汎用性を高め得る利点のあるものである。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す一部切欠側面図、第2図は要部を示す縦断側面図、第3図は第2図の緊締状態を示す縦断側面図である。

1；ハンドル、2；釣竿、3；凹窪、4；雄螺旋、5；固定具、6；緊止輪、7；後端、8；補助輪、9；補助輪、10；アダプター、11；内壁面。

◎引用文献

実 公 昭36-10283

